

第1分科会（小学校における特別支援教育）部会

テーマ「自立活動の研究～バランスのとれた認知の形成を目指して～」

諫早市立有喜小学校 教諭 佐倉 嗣宜

はじめに

本学級は情緒障がい児学級である。その対象者は、“自閉症または、それに類する者、或いは選択制緘黙がある者”とされている。つまり、心理的な要因で他人との意思疎通や対人関係の形成が困難な児童のための学級である。

その教育課程は、基本的に通常学級と変わらず、各教科の内容は、当該学年と同様である。しかし、通常学級と違う点がある。それは、自立活動という領域が設定されていることである。

自立活動の目標は、「個々の児童が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培う」とある。つまり、集団の中でよりよい人間関係を形成し、自分らしく活動し成長していくことの基盤となる知識や技能、態度及び習慣を養う活動を自立活動では仕組まなければならないということである。

本学級の児童は、現れ方に個人差はあるものの、集団生活に適応できず困ることが多い。私は日々、その様子を傍で見ながら、その要因の一つに、**学校生活で起こる現象の受け止め方の違い**（認知の歪み）があげられるのではないかという考えに行き着いた。認知療法の考え方である。

人の行動プロセスを**現象→認知→感情→行動**と仮定し、認知と感情に問題があるとして治療を進める方法である。本学級児童の困りの根本原因に「認知の歪み」にあるのではと考えたのである。

この考えに基づき、令和2年度は、「感情」に焦点を当てた。感情を色を付けた水の濃淡で表現し、可視化してみせた。児童が自分の感情を客観的に捉える研究を進めた。

次に、令和3年度は、「認知」に焦点を当てた。認知は、大人でも、全員が同じと言うことはあり得ない。人それぞれ微妙に違うものである。しかし、情緒障がい児の場合、健常児の物事の捉え方とのずれが非常に大きいのである。本学級に限らず、通常学級にも、環境の変化に対応できず、薬を服用しながら集団生活を送っている児童がいる。薬を服用すれば、問題行動の表出は少なくなるのかもしれない。しかし、それはただ単に激しい感情を薬で抑制し、行動を安定させ通常児童と同じ教育を受けているが、根本的な解決には至らないのではないだろうか。

私は、この研究を進めながら、そして日々情緒障がい児と接する中で、彼らが本来の自分らしい幸せな人生を歩んでいくためには、成人に向かうまでのこの限られた教育期間で、自分の生活の質を高めるような「バランスの取れた認知」を培っていく必要があるのではないかと痛感するようになった。

では、「大きなずれのないバランスのとれた認知」とは何なのだろう。それはどうやれば培えるのだろうか。私は、その難問の鍵を先人の生き方や知恵に求めることにした。「**バランスの取れた認知**」の形成を、児童自らの「**人格の涵養**」と捉える。腹から児童を元気づけるような先人の生き方や知恵は、情緒障害児の希望の鍵となる可能性さえも、含んでいるようではない。

# 1. 令和2年度の研究 「感情」を見つめる自立活動

授業日 10月5日(月) 3校時

授業者 佐倉 嗣宜

場 所 体育館

① 単元名 「用具を使って遊ぼう」

② 児童の実態と内容選定

	H.M(1年男子)	H.R(1年男子)	K.H(4年女子)	K.Y(4年男子)
児童の実態	○ADHD ※集団になると話が聴けず、注意散漫。	○ADHD ※集団になると話が聴けず注意散漫 ※知的に遅れ	○知的障害、精神障害 ※相手の気持ちが分からず自己中心的。 ※癩癩、自傷行為が激しい。	○挑戦性反抗障害 ※権威のあるものに反抗する ※感情をコントロールできない時は固まる。

このような実態から、次のような内容を選定する。

自立活動の6区分	項目
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定
3 環境の保持	(4) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
6 コミュニケーション	(2) 言語の受容と表出

③ 【教材の価値】

本題材は、身近な友達とルールのあるゲームで、ダイナミックに体を動かし活動する。苦手な集団行動や一人チャレンジやゲームなど、楽しみながら行うので、覚醒レベルも上がり、感情が表出しやすい。また、実際本人が体験するので、自分の感情や行動に気付き、バランスのよい認知を身に付けるのに効果がある。

④ 【指導の構え】

本題材の指導に当たっては、以下の点に留意する。

i	1時間の中で、1人組・2人組・チーム戦と段階的な場面を設定し、分かりやすくする。
ii	1時間のまとめで自分の感情や行動を振り返る。
iii	起きた物事の受け止め方、感情を言語化・視覚化し気付かせる。
iv	本人の感情・行動に後から気付けるように、癩癩など不適応な行動をしてもそのままにしておく。
v	感情のセルフコントロールを日常生活の中で生かせるようにする。
vi	補助員の先生は、1年生を支援する。その時の構えは、学習活動から大きく外れない程度の声掛けや支援にとどめる。活動の中で起きる自然な感情や行動が表出するように適度な距離を保つ。

⑤ 個人の目標

H.M(1年男子)	H.R(1年男子)	K.H(4年女子)	K.Y(4年男子)
○自分の感情や行動に気付き、捉え方が変わることで楽しくなることを知る。			
<p>○話を聴く。</p> <p>○勝負にこだわらず、最後までやり遂げる。</p> <p>○指示通りに素早く行動できる。</p> <p>○<u>自分には感情があることを知る。</u></p>	<p>○話を聴く。</p> <p>○勝負にこだわらず、活動の特性に気付く。</p> <p>○自分を過小評価せず、伸び伸びと活動する。</p> <p>○<u>自分には感情があることを知る。</u></p>	<p>○できるできないにこだわらず、活動の特性に気付き楽しむ。</p> <p>○友だちと仲良くする。</p> <p>○過小評価せず、最後までやり遂げる。</p> <p>○責任転嫁をせず、自分で考えて行動する。</p> <p>○<u>自分には、感情があり、その感情の揺れが行動に影響していることを理解する。</u></p>	<p>○リズムが崩れても楽しく活動する。</p> <p>○「○○すべき」と考えず、マイルール以外も受け入れる。</p> <p>○<u>自分の感情の揺れが行動に影響していることを理解し、感情をコントロールすることで生活を良くなることを理解する。</u></p>

⑥ 指導計画（全14時間） 本時6／14

次	配時	題 材（あそび）
一	3	<p>棒あそび</p> <p>①新聞紙跳び</p> <p>②新聞ゴルフ</p> <p>③棒としてると大変だ（1人→2人→4人）</p> <p>④武蔵（お尻叩き）</p> <p>⑤新聞ティーボール</p>
二	3／3 本時	<p>ボールあそび</p> <p>①1人ボール（キック&amp;キャッチ）</p> <p>②2人ボール（キック&amp;キャッチ）</p> <p>③4人ボール（投げゴルフ・クモサッカー・クモ風船・シュートボール）</p>
三	4	<p>縄あそび</p> <p>①1人縄（短縄とび）</p> <p>②2人縄（綱引き）</p> <p>③4人縄（長縄・十字綱引き）</p>
四	4	<p>ゲーム</p> <p>・ティーボール、サッカー、八の字跳び</p>

⑦ 展開

学習の内容および活動	❖ 児童への手立て《❖個別の目標》
<p>1 学習内容を知る。</p> <p>①あいさつ ②走る ③活動を確認 ④めあてを確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">たのしくする きまりをまもる</div> <p>⑤体操 ⑥集団 ⑦キック&amp;キャッチ ⑧シュートボール ⑨あとかたづけ ⑩振り返り</p> <p>2 学習する。</p> <p>(1) 体操をする。</p> <p>(2) 集団行動様式をする。</p> <p>(3) キック&amp;キャッチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 膝、腿、頭キックキャッチ</li> <li>・ 壁ボレーキックキャッチなど</li> <li>・ 手叩きキャッチなど</li> <li>・ ボールキャッチ&amp;キック (2人組)</li> </ul> <p>(4) シュートボールをする。</p>	<p>❖ 学習内容を知らせることにより、見通しを持たせる。</p> <p>❖ 話し手を見て聴く良さに気付く。(1年)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>①めあて ②たいそう ③しゅうだん ④ボール ⑤あとかたづけ ⑥ふりかえり</p> </div> <p>❖ (整列、動く、声を出す)をそろえ、集団としての一体感に気を付けさせる。</p> <p>❖ 4年生がお手本を見せ、1年生がきまりを守るように促す。(全員)</p> <p>❖ 教師の指示に従い、行動させる。</p> <p>❖ 指示に従えないことが予想されるが、そこでは、指示通りにできなかったことを印象づけさせるだけにとどめ、振り返りの材料とする。(全員)</p> <p>❖ 教師のお手本を見る・聴くこと、活動に集中させる。また、2人で何回できるかなど共同の喜びを味わう。</p> <p>❖ <u>勝ったチームを大げさに賞賛する、競争意識を高めるなどして感情をゆさぶる。(4年)</u></p> <p>❖ <u>ゲームの最後に勝負の結果発表があることと、みんなで楽しくするというめあてを押さえることで、不適応行動の誘発と気付きの引き出しを明確化する。</u></p> <p>❖ <u>ゲームの結果を発表する時間を設定し、勝ちたいという気持ちをもたせ、敢えて不適応行動が出やすくする。</u></p>

<p>(5) 後片づけをする。</p> <p>3 本時を振り返り、まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>もうひとりのじぶんのころのいろをみると、たのしくかつどうができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 学習活動の中で不適応行動が出た場合、後片づけをしないかもしれない。単元を通して気付かせていく立場で無理にやらせない。</li> <li>❖ 「〇〇したい」が多すぎても少なすぎても楽しんだり、きまりを守ったりすることできないことに気付く。</li> <li>❖ 水の入ったペットボトルに絵の具を入れ、感情の変化を可視化する。</li> <li>❖ 感情の変化と色水の濃さを重ね合わせて捉えさせ、その感情が行動に影響していることを理解させる。</li> </ul>
---	---

## 6 評価

- 自分に感情があることに気付けたか。(1年2名)
- 自分の感情の揺れが行動に影響していることを理解できたか。(4年K.H)
- 感情を見つめることの良さに気づき、日常生活に生かすことができたか。(4年K.Y)

## 2. 令和3年度研究 バランスのとれた認知の形成を目指した自立活動

授業日 12月1日(水)3校時

授業者 佐倉 嗣宜 場所 スマイル学級

### ① 単元名 「先人に学ぶ」

### ② 児童の実態と内容選定

	K. K (1年男子)	H. M (2年男子)	H. R (2年男子)	K. H (5年女子)	K. Y (5年男子)
児童の実態	○ADHD ※集団になると話が聴けず、注意散漫。	○ADHD ※集団になると話が聴けず、注意散漫。	○ADHD ※集団になると話が聴けず注意散漫 ※知的に遅れ	○知的障害、精神障害 ※相手の気持ちが分からず自己中心的。 ※癩癩、自傷行為が激しい。	○挑戦性反抗障害 ※権威のあるものに反抗する ※感情をコントロールできない時は固まる。

### 自立活動の内容と項目 (本単元)

領域の内容	項目
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事
3 人間関係の形成	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事
4 環境の把握	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

### ③ 【教材の価値】

本単元は、人格の涵養<sup>かんよう</sup>のきっかけとなるような日本の神話や古今東西の偉人物語である。一つ一つのエピソードには、憧れと美しい行いを育む力があり、触れるだけで子どもたちの心に深く染み込むものである。本学級の児童がそれに憧れをもてるように仕組んでいきたい。

### ④ 【指導の構え】

本単元の指導に当たっては、以下の点に留意する。

① 1 単位時間をパターン化し、安心させる。
② 1 単位時間の中で楽しみになるものを必ず入れる。
③ 言葉や話の意味を理解させることに注力せず、折に触れ気付かせる。
④ 教師も一緒に人格を高める姿勢を維持する。

### ⑤ 個人の目標

K. K (1 年男)	H. M (2 年男)	H. R (2 年男)	K. H (5 年女)	K. Y (5 年男)
○偉人の美しい行いを知り、憧れをもつ。	○偉人の美しい行い理解し、憧れをもつ。	○偉人の美しい行いを理解する。	○エピソードを通して、美しい行いを理解する。	○エピソードを通して美しい行いを知り、日常生活に生かす。

### ⑥ 指導計画 (全 2 2 時間) 本時 9 / 2 2

次	配時	題材
①	3 (10/1, 10/8, 10/15)	「古事記 CGS」 C【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
	1 (10/22)	「神武天皇」(日本建国の精神を知る) B【親切、思いやり】
	1 (11/5)	「聖徳太子」(和を以て貴しと為す) C【よりよい学校生活、集団生活の充実】
②	2 (11/12, 11/16)	「二宮尊徳」(積小為大) A【希望と勇気、努力と強い意志】
	1 (11/26)	「中江藤樹」(親孝行) A【正直、誠実】 C【家族愛、家庭生活の充実】 B【感謝】
	1 (12/1 本時)	「北里柴三郎」(人の役に立つ生き方) A【希望と勇気、努力と強い意志】 C【勤労、公共の精神】 【国際理解、国際親善】 A【個性の伸長】 D【生命の尊さ】
	1 (12/10)	「吉田松陰」(学は人たる所以を学ぶなり) A【善悪の判断、自律、自由と責任】 C【勤労、公共の精神】 C【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
	1 (12/17)	「本居宣長」(古事記伝) A【希望と勇気、努力と強い意志】

②	1(1/7)	「明治天皇」(思いやり) B【親切、思いやり】A【節度、節制】
	3(1/14, 1/21, 1/28)	「西郷隆盛」(敬天愛人) B【友情、信頼】C【公正公平、社会正義】A【正直、誠実】
	1(2/4)	「渋沢栄一」(国と人を豊かにすることを目指した実業家) C【勤労、公共の精神】A【個性の伸長】
	1(2/18)	「南方熊楠」(自然を愛する) D【自然愛護】【感動、畏敬の念】
③	3(2/25, 3/4, 3/11)	紙芝居を作って発表しよう「川江橋のカワソ」 B【感謝】C【家族愛、家庭生活の充実】B【礼儀】
④	2(3/18 など)	「偉人カルタを作ってみんなで遊ぼう」 C【規則の尊重】

⑦ 展開 (本時9/22)

学習の内容および活動	児童への手立て《個別※》
<b>1 導入</b> (1) 黙想する。 (2) 学習した言葉を朗読をする。 (3) 今日学習する人物を知る。 (4) 自分自身を見つめ直す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">あなたは、ありがとうと言われたことはありますか？</div>	○全員の心を落ち着かせ学習に集中させる。 ○日常の学校生活の気づきを、学習した言葉を結びつける。 ○大まかな人物紹介をして、話の見通しをもたせる。
<b>2 展開</b> (1) めあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">きたざとしばさぶろうさんのよいところを見つけよう。</div> (2) 北里柴三郎の話を書く。 (4) 感想を書く。 (4) オリジナル偉人かるたを作る。 (5) 自分の読み札を発表する。	○話の内容を分かりやすく、理解させる為に、北里柴三郎の生涯を時系列で捉えさせる。(黒板に短冊カードで残す) ○短冊カードをもとに、価値に近づくように振り返らせる。 ○北里柴三郎の読み札を考える。 ○北里柴三郎の取り札に色を塗る。 ○温かい雰囲気づくりをする。
<b>3 終末</b>	

(1) 教師の説話を聞く。	○北里柴三郎の言葉から人の役に立つんだという志の強さに <sup>あやか</sup> 肖ろうと思うことを伝える。
---------------	--

⑧ 評価

- 偉人の美しい行為を知り、憧れをもつができたか。(1年K、K)
- 偉人の美しい行為を理解し、憧れをもつことができたか。(2年H、M、H、R)
- エピソードを通して、美しい行為がどんなものか知ることができたか。(5年K、H)
- 美しい行為に憧れをもち、学校生活の行動に表すことができたか。(5年K、Y)

3. 最後に

令和2年度は感情について、令和3年度は、人間の根幹をなす認知の形成についての授業研究を進めた。私は、「認知の形成」を「人格の涵養」と捉え、授業形式は、道徳科の授業の流れを用いた。

① 道徳的価値の方向づけと把握②題材に対して価値の焦点化③自己の考えの落とし込み④説話

この基本的な授業展開を軸に、①と②に関しては絵本や紙芝居、短冊カードなどでアレンジして価値に対して方向づけて焦点化した。1・2・5年と学年の格差があるため、素話で内容がより理解できるように努めた。素話により、学年の差も弾力的に埋めることができたように思う。③は、自分だけのオリジナル偉人カルタを作らせた。1単位時間がぶつ切りで終わるのでなく、すべての学習がつながっていることを意識させるためにも、カルタ作りは有効であったと思う。④の説話は、教師自身もその言葉を生かしていく姿勢や感動の気持ちを示すこと、子ども自身が生活に生かせるような具体例などを示すことを留意した。さらに、偉人の遺した言葉を「幸せのことば」とネーミングして教室掲示し、1週間に一つずつ紹介して、朝の会で暗唱している。その授業で終わらせず生活の中でも意識させるためだ。こうした結果、児童は偉人伝の活動がとても好きになり、先人の知恵や教えが生活の一部となった。現在も続けており、その数は、50以上になった。自立活動のみならず、他教科(主に道徳科、国語)や行事(入学式、卒業式、運動会)、集会での教職員の講話など多くの場面で価値を落とし込むことに成功している。低学年3名は、話を瞬間的に把握して、すんなりとその世界に入ることができ、学習自体を楽しく取り組んだ。実在の人物であることや印象的なエピソードであることもその要因である。1年国語物語文「お手がみ」は、手紙をもらったことのないがまくんに友だちのかえるくんが手紙を書くという話。この一節に、「2人は幸せな気分になった。」とある。手紙をもらったがまくんだけでなく、手紙を送ったかえるくんも幸せな気分になったということと、国と人を豊かにすることに生涯費やした渋沢栄一など先人の生き方とかえるくんの行動を重ね合わせることができた。「お手紙」の物語としての面白さだけにとどまらないダイナミックな学習と人格の涵養が教科学習でも展開できた。このように、学校の教育活動では、至る所で先人の教えを活かすことができる。

最後に、6年生男子を紹介する。この子は、3年生で転入してきて、交流集団の中に入ろうとしなかった。「あそこ(集団)に行っても何も無い。」と話していた。物事を損得で考える傾向の強い児童である。現在も学期に数回情緒不安定で授業拒否することがある。しかし、ボランティアクラブ(トイレ掃除クラブ)に入る、教頭の朝の窓開けを手伝う、面識の薄い1年生が物をなくして、困っていたのを昼休み中探し見付け出してくれる等、明らかな変化がうかがえる。それは、ただ単に先人への憧れだけではなく、先人の生き方や教えに納得し、彼の行動を決定させる軸として十分すぎる深さがあった。このクラスに集まってくる児童に対して、人格を涵養は極めて重要であることと先人に学ぶ教育が有効であると結論づける。